

RadioDays



ラジオデイズ

声には、
人の体温があり物語がある

月刊「ラジオデイズ」9月号 (通巻第28号)

2009年8月28日発行

[発行人] 赤塚祐一郎

[編集人] 大森美知子

[発行所] 株式会社ラジオカフェ

東京都新宿区新宿1-6-5 シガラキビル6F

Email: info@radiodays.jp FAX: 03-5356-8281

http://www.radiodays.jp

9

September Edition

2009, vol.28

Free of charge

この人の声が聴きたい◎9月 カルメン・マキさん (ミュージシャン)

〈私というジャンル〉をやり続けることの素晴らしさ

ああ、今日も遅刻だと思いつながら、テレビを振り返ると、そこに髪の毛の長い美少女が映っていた。TBSが朝、若者向けに放送していた番組「ヤング720」だったと思う。憂愁を帯びた眼差しその少女は、カルメン・マキという不思議な名前の持ち主だった。

そう、「時には母のない子のように」が大ヒットした、一九六九年のことである。

マキさんは、寺山修司の主宰する劇団「天井桟敷」で短い間、女優として活動したが、ジャンス・ジョプリンに強い影響を受けて、ロックへ進んだ。「カルメン・マキ&OZ」は、文字通り七〇年代を代表する日本のロックバンドであり、彼女のような高い歌唱力と象徴的な身体を併せ持ったシンガーは他にほとんどいない。

結婚と出産の一時的な休止を除いて彼女はざーっと、しかも様々なジャンルの曲を歌い続けてきた。OZ時代の曲もジャズのスタンダードも子守唄も(マキさんつながりなのか)浅川マキの曲も歌っている。でも、それらもみな見事にカルメン・マキの歌である。

そんなマキさんに会いたいと思って、「ラジオの街で逢いましょう」にお招きした。

「マキさんの歌は誰にも似ていませんね。マキさんのスタイルとしかいいようがない」と私が言うと、彼女はこう応じてくれた。

「うん、私はカルメン・マキというジャンルをやり続けているのね。つまり、ワン・アンド・



オンリー」

明快で強力な方針である。たぶん、彼女はなんにも怖いものがない。

ラジオ番組の後、さらに三十分、ラジオデイズ用のオリジナル音源も収録した。僕は、彼女が、六〇年代末の新宿や渋谷をどんなふうに見ていたかが知りたかった。

「毎日、街へ出ていった。家を出てたから帰るところもなかったし、街にはエネルギーが充満していた。いろんなところでいろんな人々と延々と議論をしていた。なんであんなにエネルギーがあつたんだろうね？」

確かに、あの頃、街へ出かけていくことは、呼吸をするのと同じように自然で、しかも生きていくためにどうしても必要なことのように思えた。野良犬のように一日中ほつき歩いて、へとへとになって、しかしちつとも満たされない自分に呆然としたものだ。

新しいアルバム『ペルソナ』のツアーの日は高円寺のライブだった。訥々としたMCがいつの間にか詩の朗読に変わり、それが次の曲の導入になっていたりする。

その日、マキさんはずっと「封印」していた曲ののだがと前置きして、寺山修司が詞を書いた「戦争は知らない」を歌った。戦争で死んだ父を想いながら嫁していく二十歳の女性の心情を、今年二十歳になった自分の娘のために歌うことになったのだと言って。

(ラジオデイズ・プロデューサー 菊地史彦)

ラジオデイズは、文芸・対話・話芸を三本の柱に、声のもつ魅力に特化した音声コンテンツを制作し、ダウンロード販売するWebサイトです。

飄逸で含蓄のある随筆、瑞々しい感性の横溢する詩歌や小説の朗読、個性的な対話者たちの真摯な言葉の応酬から生まれる知的交歓、粹と人情の落語や講談などなど、大人のお楽しみにたえる魅力的なコンテンツが満載です。

ただいま入会随時受付中!

会員(会費無料)になられると、期間限定の無料コンテンツがお楽しみいただけます。サイトでは、声の魅力を凝縮したコンテンツのすべてが試聴できるほか、演者のプロフィールやコラムなど読み応えも十分です。どうぞお立ち寄りませ!

<http://www.radiodays.jp>

〈対話・放談〉

人気メルマガでおなじみ、田中宇氏のニュース解説『世界はこう読め! I・II』、人気コラムニスト小田嶋隆氏が世相を斬る『グラフィカルトーク』、大貫妙子さんと加藤和彦さんなど、ミュージシャンに話を伺う『Music Talk』、ラジオ番組「ラジオの街で逢いましょう」の番外編「ラジオ街ブラス」が好評。さらに、慶應丸の内シティキャンパス(慶應MCC)開催の『夕学』のなかから、各分野の第一線で活躍する研究者・経営者・文化人・ジャーナリスト等による講演を厳選してお届けしています。

〈文芸〉

作家の関川夏央さん、小沢昭一さん、詩人の清水哲男さんなど多彩な解説者を迎えた「声のエッセイ」コレクションが評判。また、「声の詩集」シリーズからは、女優馬九せつこさんの朗読、詩人の正津勉氏がナビゲートする『詩人の愛』I・IIをお届け中。女優有馬稲子さん朗読の『水仙』も登場。さらに本邦初となる落語家・入船亭扇辰師、柳家三三郎朗読による江戸弁で聞く落語調「ゴリ」「外套」「鼻」も発売。詩人の小池昌代さんのコラム「言問い小路」も好評連載中。

〈話芸〉

ラジオデイズ収録の新鮮なオリジナル音源二百六十本余をお届け中。時代に磨かれた古典を自家楽館中に現代に演じきる噺家たち。そして、時代の流れから湧き出た、かつて語られたことのない新作に筆を削る噺家たち。ライブ音源だけに一期一会の噺に出会えます。不定期ですがラジオデイズイチオシの噺家さんの演目を無料ダウンロードにて提供していきますので、毎日覗きにきてください。まずは、試聴ボタンを。

オリンパスモビー寄席

【日時】9月15日(火)午後6時45分開演(午後6時15分開場)
【場所】お江戸日本橋亭

すべての落語は新作として生まれ、数多くの噺家によって高座にかけられ、生き残ったものが古典になる……。それを自家葉籠中に演じざる現代の噺家たち！ 人情の機微に触れ、免疫力増進の涙と笑いの宝庫、至福の話芸の真剣勝負。

桃月庵白酒

(こうげあん・はくしほ)

五街道雲助に入門。平成一七年、真打ち昇進と共に三代目桃月庵白酒を襲名。同年に第十回林家彦六賞した気鋭の若手である。作務衣の似合う柔和な風貌と温もりのある声質とは裏腹な辛口の洞察力が聞き手を惹きつける。平成二十年、花形演芸会銀賞受賞。



三遊亭天どん

(さんゆうてい・てんどん)

三遊亭円丈に入門。平成一三年、二ツ目昇進。円丈門下の二ツ目中でも技巧と発想力に定評があり、新作はもちろぬ古典の改作でも、自在に噺を飛躍させる豪腕ぶりで知られる。平成一九年、第十七回「北とびあ若手落語家競演会」北とびあ大賞受賞。



明烏い話

連載第29回 本田久作

「女というのは象みたいなものだ。見るのは好きだが、飼ってみたいとは思わない」ということをC・W・フィールズという人が言ったそうだ。私はこのフィールズという人が何をした人かすら知らないけれども、これは上手い言い草だとは思った。そして、噺家、とりわけ名人の噺家もまた女に似ているような気がした。名人というのは噺を聞く分には実にけっこうではあるが、実際にはつきあいたくない。

私がこの時まず思い浮かべた名人というのは志ん生である。好きな噺家を一人だけ挙げよと言われれば、大いに逡巡した挙句、渋々志ん生の名前を出すぐらいには私は志ん生のことが好きだが、志ん生と酒を飲みたいとは思わないし、ましてやつきあいななど絶対にしたくはない。ゴツホの絵を評価しても、ゴツホとはつきあいたくないと思うのと同じことだ。自分の耳を自分の手で切り落とす男とつきあいたいと願う人はあまりいない。その狂気こそがゴツホの魅力だとゴツホを褒めそやす人がいるかもしれないが、そういう人たちとは私はゴツホ以上につきあいたくない。彼らは気遣いではないが、どこか心根が汚い。

志ん生は数々の武勇伝を残している。そのどれもがいかに後年の志ん生の芸にふさわしいものばかりだが、その時志ん生の間近にいた者にとってはたまったものではないエピソードばかりでもある。関東大震災の折、このままでは東京中の酒がなくなってしまうと

酒屋に駆けつけ、店の者にただでいいと言われたのを幸い、地震で揺られながら升酒をかつ食らう志ん生の姿は話として聞く分には格好いい。だが、そんな時に「どうでえ、お前も一杯」と誘われても、私なら断って逃げることに専念する。それが志ん生であらぬ身方だ。残念ではあるが、それが私なのだから仕方がない。

志ん生は後年噺家として売れた。そのおかげで数々のエピソードは武勇伝として伝えられている。だが、志ん生と同じような性格の持ち主で世に埋もれていった芸人は何人もいる。と言うか、そちらの方が圧倒的に数は多い。私はそういう人々を敬しつつ、遠ざかって彼らを見てきた。その態度は今も変わらない。今、目の前に馬石時代の、馬生時代の、志ん馬時代の志ん生が現れたら、私はその場から逃げ出す。その代わり最後の矜持として、志ん生が売れた後も同様に敬して遠ざけ続ける。

安藤鶴夫は最初、志ん生を嫌った。嫌ったのも無理はないと思う。安藤鶴夫の考えでは芸人なりで、志ん生は生活人としてははつきり言えば下の下である。江戸っ子という言葉葉をあえて使わず自らを「東京っ子」と呼び、そこに全幅のプライドを賭けていたアンツルの価値観からすれば、志ん生は下手をする江戸っ子ですらなかつただろう。あんなに意地汚く酒を飲みたがり、平気で義理をかく男がアンツルにとって江戸っ子であるはずがない。だから、アンツルは最後まで志ん生を嫌うべきだったのだと私は思う。そうしたところで損をすることは一つもなかった。というのは嘘で、少しぐらいは損をしただろうが、東京っ子がそんな野暮なことを言っちゃあいけないのだ。志ん生は安藤鶴夫が怖れていた以上に

売れた。売れた者に巻かれるのは芸人の常である(アンツルは自分のことを芸人だと思っていないかつただろうが)。だから、アンツルは志ん生にヨイショするようになった。私はそれはそれで正しいやり方だと思う。私でも同じことをする。ただ、安藤鶴夫にその自覚がなかったように見えるのが残念なのである。

●ほんた・まうさく

一九〇六年大阪府生、落語作家。二〇一二年の「仏の遊」が国立演芸場台本募集佳作受賞以来、落語、漫才など新作台本関係の賞を毎年総ナメの業界巨匠の新進作家。主左受賞作「玉手箱」(国立演芸場台本募集優秀作)、「儂の葬式」(按摩の夢)、「幽霊妻」(いずれも落語協会優秀賞)など

私の讀本ばなし 貳拾八

柳家小ゑん

き 『三人旅』

師匠の小さんに、二ツ目のときに初めてお願いして習った数少ない噺。それも、発端から「鶴屋善兵衛」までの全篇を、なおかつ、師匠と向かい合って一対一で、三通稽古をつけてもらいました。それはもう思い入れのある大切な噺です。

式 『ぐつぐつ』

まだ二ツ目のとき、二十代の若さで作った噺で、当時はこういう馬鹿馬鹿しい噺は年をとったら演らないだろうと思っていたのですが、実際はいまもよくかけて、有難いことにお客様にもよく笑っていただきます。たとえ世の中の状況が変わっても、このままジジイになってもずっと演てるんじゃないかと思うようになりました。私の新作の中でもベースになる噺です。

参 『悲しみは埼玉に向けて』

三遊亭円丈師作の今までにない斬新な手法で作られた、すごく演ってみた噺でした。ところが最初お願したときには断られてしまい、よほど円丈師がだじじにしてののだと肝に銘じたものです。その後、「無限落語」の会でネタを取り替える企画があり、「やるかい？」と、自分流にアレンジしてかかせていただき、円丈師にも喜んでいただいた。これからもだじじにしていきたい噺です。

「声」や「器」をタンクロード！

今が旬の音声コンテンツ満載

<http://www.radiodays.jp>

齒に衣着せぬ発言で世相を斬る痛快トーク

●「田中宇の世界は、こう読め！」

●「小田嶋隆のグラフィカルトーク」

ミュージシャン・ロングインタビュー

●「Music Talk 大貫妙子の世界」



温もりと味のある声のエッセイ／新鮮な詩の物語り

●詩人の心の原風景（谷川俊太郎）

●『水仙』瀬戸内寂聴（朗読・有馬稲子）

●詩人の愛 金子みすゞ、中原中也、村山槐多ほか（鳥丸せつ）／正津勉



本邦初！世界初！江戸弁で聴く落語「ゴロリの魅力」

●『外套』（I～III）入船亭扇辰

●『鼻』（I～II）柳家三三



面白くて物凄、当世落語家の噺がいっぱい。三遊亭円丈、昔昔亭桃太郎、五街道雲助、古今亭志ん五、柳家小ゑん、瀧川鯉昇、柳家喜多八、柳家市馬、桂平治、柳家喬太郎、三遊亭白鳥、三遊亭遊雀、入船亭扇辰、林家彦いち、古今亭菊之丞……etc.

ラジオデイズサイトにようこそ！

※ご購入や無料ダウンロードには会員登録（無料）が必要です。



行こみちが

女流二ツ目の修行日乗⑦



柳亭こみち

師匠宅の家電の中で私が一番長く触れてきたもの、それは掃除機。奴がうんともすんとも言わなくなった叩いても振っても、びくともしない。

アイロン、電子レンジ、テレビ、エアコン、洗濯機。私が師匠の家に来たら買い替えられた家電たち。前座の頃は新品の家電に、修業に打ち込む気持ちを掻き立てられた。使い勝手のいいアイロンは師匠の肌襦袢をピシッとさせる。毎日師匠宅にいた私にとって、家電一つ一つに思い出がたくさん。電子レンジの使い方、エアコン掃除で叱られたのも、今は懐かしく笑えるようになった。昇進後、何日かぶりに師匠宅に行き新しい家電があると、なんだか淋しい気持ちになる。思い出の家電に別れを告げられぬまま去ってしまったのか、と。最近では空気清浄機という現代的な家電すら登場し、時の流れを感じさせる。

掃除機にはたくさんのことを教わった。動かせる家具の後ろに埃が残ってはいけない。丁寧にかけ過ぎて時間がかかってはいけない。急いでかけても家具を傷つけてはいけない。人がいるのにそこを掃除したいような雰囲気を出してはいけない……。

修業中約4年間、ほぼ毎日かけ続けた掃除機。新しい掃除機の輝きとは対称的に、慣れ親しんだ彼は傷だらけ。力尽きたその体を大事に段ボールに詰めながら、

私は彼の活躍を讀んで心の中で拍手を送った。君との日々、忘れないよ。

●りょうていこみち

社会人生活を経て、平成15年柳亭燕路に入門。18年11月二ツ目昇進。趣味は長門。特技は日本舞踊、吾妻流名取（重要春美）。落語協会野球部、チームR所属。



味な脇役・話芸のきまり文句

連載第28回

植物



松井高志

昔から植木や草花をめぐる人が多かったせいだろうが、植物を用いた比喻表現が、効果的な「きまり文句」として繰り返し使われる。「沈魚落雁、閉月羞花」などという、講談によく出る美人（具体的には、「安政三組盃」の主人公の一人・津の国屋小染など）のたとえはちよつとややこしくてわざわざ意味の説明が必要なので、話芸で用いるには、今日では半ば「死にかけた」比喻なのであるが、これが、

立てば芍薬座れば牡丹歩む姿は百合の花

になると、またいくらかイメージが容易で、生きた比喻（賞味期限内）であるといえる。

梅桜桃李一時に咲き乱れたような

というゴージャスな言い回しもある。これは、いざれ劣らぬ大勢の美女（美男が加わっている場合もないことはない）がずらりと勢揃いしているという絢爛豪華な場面を表すための言葉だ。

春の景色を形容するための常套句には、

柳は緑、花は紅

がよく用いられる。もつとも、これは単純な叙景句ではなく、天然自然そのままの姿（天地自然の面目をいふ）故事成語大辞典・簡野道明著）をいい、心学書などにも邪念のない人の心を表現するために出てくる文句。哲学のフレーズなのだ。たしかハナ肇とクレージー・キャッツの「学生節」にも出てきたはずである。

いっぽう、罵倒語にも植物が使われている。

あんやもんや

という、五代目古今亭志ん生の噺の人物がよく喧嘩の時に相手を罵る言葉があるが、これは「なんじゃもんじゃ」という木（その土地で見慣れない木を主に関東でこう呼ぶが、有名どころでは神宮外苑にあった「ヒトツバタゴ」の木がこう呼ばれていた）のことらしい。一方、「唐変木」というのは、たしかにそういう異名を持つ植物もあるにはあるのだが、またちよつとばかりニュアンスが違うので、罵倒語の世界はなかなか奥が深い。

●まいつたかし

一九六〇年愛知県生。月刊誌編集者を経てフリーライター。著書に『人生に効く！ 話芸のきまり文句』金凡社新書、『バンドク』難読漢字自習帳（パズル）『江戸に学ぶビジネスの極意』アスペクトなど。『話芸』『きまり文句』辞典 サイトは<http://wagaidon.coopdoginny.com/>

●これからの落語会開催スケジュール●ラジオデイズ主催

第29回オリンパスモビー寄席 立川談笑独演会

〔会場〕牛込筆筒区民ホール

〔大正線〕牛込神楽坂駅 A1出口すぐ

〔料金〕2800円(前売2500円)

〔時間〕午後7時開演(午後6時半開場)

●10月23日●

立川談笑・ゲストロケット団

予約お問合せ：ラジオデイズ03-3341-1130 / フレィガイド・東京音協03-3301-1181-6 www.fgh.jp / チケットぴあ0570-019999 / 三九七二七五 / イープラス (パソコン & ケータイ)

ラジオの街で逢いましょう

ラジオデイズでは、声と語りの魅力を求めて、深夜のラジオ番組も制作・放送しています。お相手は、ラジオデイズプロデューサーの平川克美、菊地史彦、伊藤博、大森美知子が務めます。これまでの放送分は、ラジオデイズサイトにてストリーミング放送中。さらにポッドキャストでも配信中です。どうぞ真夜中の語らいに耳を傾けてみてください。

<http://www.radiodays.jp>

今後の放送予定(深夜のお客様)

9月6日 ウエイウエイ・ウー(二胡バイオリン奏者)

13日 山口昭男(若波書店社長)

20日 橘家文左衛門(落語家)

「声」と「語り」をダウンロード!

今が旬の音声コンテンツ満載 <http://www.radiodays.jp>

今最もブッキング困難な役者を揃えた特別対談。絶妙な話芸と目から鱗の文化対談をお届けします。

●戦後落語論

新作落語の旗手、そして教祖的存在である三遊亭円丈に、新進の落語作家本田久作がからむ。落語ファン待望の新作落語黎明期の真相話が炸裂。



三遊亭円丈 本田久作

●戦後詩人論

戦後作家の中心的存在であり鋭利な批評家でもある高橋源一郎が、生粋の詩人にして川端康成賞の小説家でもある小池昌代と現代詩について話し合う。



高橋源一郎 小池昌代

●戦後マンガ家論

脳生理学者であり京都漫画ミュージアム館長でもある養老孟司と小林秀雄賞受賞の現代思想家内田樹。マンガに一家言あるこのふたりが存分に語り合う。



養老孟司 内田樹

そのほか、面白くて物凄、朗読や落語がいっぱいです。ラジオデイズサイトによる! ※ご購入や無料ダウンロードには会員登録(無料)が必要です。

葉月の落語会

第二七回オリンパスモビー寄席(八月八日)は、春風亭百栄独演会。開口一番はお馴染み春風亭ぼっぼさん、「ん廻し」でほのぼのの気分。さて、いきなり百栄師匠登場、ネタは「引越しの夢」。お店に綺麗な女が女中奉公にやってくる。番頭さんや手代たちは心うさうさ大騒ぎ。下心見えみえで引き起こす事件の顛末や如何に……。古典も普通では済まない百栄流をお楽しみ。続く本日のゲストは凸凹漫才コンビの米粒写経。時代錯誤の軍隊オタクとマンガオタクの噛み合わない対決が笑いを生みだす。快調なテンポでアクが強い米粒のしゃべくり漫才は、東京漫才の正統派だ。再登場の百栄師匠、今話題の裁判員制度のマクラから噺は法廷モノへ。ネタは「午後の審理」。固い噺と思う人はこの師匠の本性をご存じない。被告人百栄を前に引き出された証人に迫る、どこまでもエ



グイ弁護人の質問に、師匠の創作落語の中でも場内唾然の問題作となりました。仲入りの後も百栄師匠でネタはレアもの古典「尼寺の怪」。暑い夏の夜の定番は怖い百物語。町内の若い衆が集まって怪談噺の廻しっこをすることになる。困った熊さん、和尚さんから深い山奥の尼寺での怖い噺を仕入れ、鸚鵡返しで披露するが……。師匠お得意のちよつと間抜けな男を好演して、大きな笑いをとりました。落語も漫才も東京の笑いは負けてません、上方の衆よ。(ラジオデイズ寺和尚)

「オリンパスモビー寄席」携帯用特別コンテンツ

モビー寄席特別コンテンツでは、モビー寄席やラジオデイズ落語会にご出演いただいた演者さんの情報や音源、最新のラジオデイズイベント情報が携帯電話からお楽しみいただけます。



バーコードで簡単アクセス!

左のQRコードを携帯のカメラで読み取り、メールを立ち上げて撮影写真を添付し送信。
※ドメイン指定受信の設定をされている方は、mobe.jpを追加してください。

月刊ラジオデイズ各号の1ページ目『この人の声が聴きたい』の丸抜き写真、見開きページの落語家さんのプロフィール写真を撮影、メールに添付して送信すると、アクセス先URLが記載されたメールが返信されてきます。



Mobe (モビー) とは?

オリンパス(株)とホスティング・アンド・セキュリティ・インクスの共同開発による、携帯サイト作成ツールと先進の画像認識技術によるサイトアクセス方法を月あたり263円~という低価格でご利用いただける携帯サイト作成サービスです。

個人の方から法人のお客様まで自分専用の携帯サイトを簡単に開設することができます。用途に応じて、クーポン作成やメルマガ配信などのプランもご用意しました。お申し込みは、PCから<http://pdh.mobe.jp>にアクセス!

ラジオデイズの窓から

蝉の大合唱はまだ止みそうもありませんが、八月半ば過ぎ頃から鳴いている蝉の種類が変わったり、枝先に紅色の花を咲かせたサルズベリが爽やかな風に揺れていたりと少しずつ秋の気配を感じ始めました。

ラジオデイズでも学びの秋に向けて、耳で読む名作から後世に残したい著名人の講演、ビジネスの今が六十分でわかる講座など、知的なコンテンツを取り揃えております。